

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 特 許 公 報 (B 2)

(11) 特許番号

第2892454号

(45) 発行日 平成11年(1999) 5月17日

(24) 登録日 平成11年(1999) 2月26日

(51) Int.Cl. ⁵	識別記号	F I		
F 2 4 C 7/02	3 2 0	F 2 4 C 7/02	3 2 0 A	
	7/08	3 2 0	7/08	3 2 0 Z
H 0 5 B 6/68	3 3 0	H 0 5 B 6/68	3 3 0 D	

請求項の数1(全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平2-198636
(22) 出願日 平成2年(1990) 7月26日
(65) 公開番号 特開平4-84026
(43) 公開日 平成4年(1992) 3月17日
審査請求日 平成8年(1996) 1月8日

(73) 特許権者 999999999
株式会社東芝
神奈川県川崎市幸区堀川町72番地
(72) 発明者 伊藤 進
愛知県名古屋市中区葎原町4丁目21番地
株式会社東芝名古屋工場内
(74) 代理人 弁理士 佐藤 強 (外2名)

審査官 関口 哲生

(56) 参考文献 特開 平2-312182 (J P, A)
特開 平2-239589 (J P, A)
特開 昭62-274595 (J P, A)
実開 平2-71994 (J P, U)

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 電子レンジ

1

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】 マグネトロンを駆動するために半導体スイッチング素子およびトランス等を備え、これら半導体スイッチング素子およびトランスをプリント基板に実装するようにしたものにおいて、前記プリント基板上に、前記半導体スイッチング素子とトランスとの近傍で且つこれらを接続する導体パターンの近傍に位置して温度センサを設け、この温度センサによる検出温度に基づいて加熱運転を制御するようにしたことを特徴とする電子レンジ。

【発明の詳細な説明】

【発明の目的】

（産業上の利用分野）

本発明は、マグネトロンを駆動するために半導体スイッチング素子およびトランス等を備えた電子レンジに関

2

する。

（従来の技術）

電子レンジでは、インバータ回路およびトランスを備えて、トランスの二次側に高周波高電圧を発生させ、この二次側に設けられた整流倍電圧回路によってマグネトロンを駆動するようにしたものが供されている。上記インバータ回路は共振コンデンサや半導体スイッチング素子を有して成る。

しかして、上記半導体スイッチング素子やトランスは回路構成のコンパクト化を図るために、他の電気部品などと共にプリント基板に実装されている。

ところで、この種の電子レンジでは電気回路での発熱が大きく、特に、半導体スイッチング素子は温度影響を受けやすいことから、従来では、この半導体スイッチング素子の放熱板に温度センサを設けて、該温度センサの

検出温度が予め定められた上限温度に達すると、半導体スイッチング素子の動作を停止させるようにしている。
(発明が解決しようとする課題)

しかしながら、最近の電子レンジでは、さらに高周波化する傾向にあり、特に、上述のようにプリント基板に半導体スイッチング素子およびトランスを実装する構成では、半導体スイッチング素子はもとよりトランスの発熱も大きく、導体パターンが高温の影響を受けるおそれがあり、半導体スイッチング素子のみについて温度検出を行えばよいという従来方式では、電気回路各部の熱による劣化を防止することが困難で、使用寿命および安全性の面で不安が残るといった問題がある。

本発明は上記事情に鑑みてなされたものであり、その目的は、半導体スイッチング素子のみならずプリント基板における各部の熱による劣化を防止でき、使用寿命を長くできると共に安全性も確保でき、しかもこれを簡単な構成にて達成できる電子レンジを提供するにある。

[発明の構成]

(課題を解決するための手段)

本発明は、マグネトロンを駆動するために半導体スイッチング素子およびトランス等を備え、これら半導体スイッチング素子およびトランスをプリント基板に実装するようにしたものにおいて、前記プリント基板上に、前記半導体スイッチング素子とトランスとの近傍で且つこれらを接続する導体パターンの近傍に位置して温度センサを設け、この温度センサによる検出温度に基づいて加熱運転を制御するようにしたところに特徴を有する。

(作用)

上記手段によれば、プリント基板上に、半導体スイッチング素子とトランスとの近傍で且つこれらを接続する導体パターンの近傍に位置して温度センサを設けているから、これら各部の温度を総合的に検出することが可能である。そして、この温度センサによる検出温度に基づいて加熱運転を制御するようにしたので、半導体スイッチング素子のみならずプリント基板における各部の熱による劣化を防止することが可能である。

また、一つの温度センサでありながらも、これを、半導体スイッチング素子とトランスと導体パターンとの近傍に位置させて、複数箇所の温度を総合的に検出するから、温度検出対象の個々に温度センサを設ける場合と違って、構成が簡単であると共にコストの低廉化にも寄与できる。

(実施例)

以下、本発明の一実施例につき図面を参照しながら説明する。

電気回路を示す第4図において、電源プラグ1の一方の端子1aは、ヒューズ2、第1のドアスイッチ3aを介して、ダイオードブリッジ4の一方の入力側に接続され、そして、電源プラグ1の他方の端子1bは、第2のドアスイッチ3b、メインリレースイッチ5、切替リレースイッチ6、

チ6の接点c-aを介して、ダイオードブリッジ4の他方の入力側に接続されている。第1のドアスイッチ3aと第2のドアスイッチ3bとの間はこれら両スイッチ3a,3bと逆の開閉関係で連動する周知のショートスイッチ7が接続され、そして第1のドアスイッチ3aと、切替リレースイッチ6の接点bとの間にオープン用のヒータ8が接続されている。

マグネトロン9は駆動回路10によって駆動されるようになっており、このマグネトロン9から出力されたマイクロ波は図示しない加熱室内に供給されるようになっており、このマグネトロン9は前記ダイオードブリッジ4を備えたインバータ回路11と昇圧トランス12と倍電圧整流回路13とから構成されている。

インバータ回路11は、ダイオードブリッジ4の出力側にチョークコイル14、整流コンデンサ15、トランス12の一次コイル12a、共振コンデンサ16、半導体スイッチング素子17およびフライホイールダイオード18を図示のように接続して構成されている。

倍電圧整流回路13は、トランス12の二次コイル12bに高圧コンデンサ19および高圧ダイオード20,21を図示のように接続して構成されている。

しかして、上記駆動回路10は、半導体スイッチング素子17をオン・オフ駆動させることによりマグネトロン9を駆動して加熱運転を実行し、その動作を停止させることにより、加熱運転を停止させるようになっている。なお、半導体スイッチング素子17のオン時間を変更することによりマグネトロン9の出力を変更し得るように構成されている。

一方、運転制御回路22は、マイクロコンピュータおよび各種A/D変換器を含んで構成されており、これは、リレー駆動回路23を介して前記メインリレースイッチ5、切替リレースイッチ6を制御すると共に、素子駆動回路24を介して前記半導体スイッチング素子17を制御するようになっている。

また、上記運転制御回路22には、後述する温度センサ25からの温度検出結果が与えられると共に、前記各種スイッチ26からの入力を与えられるようになっており、内部ROMに記憶した運転プログラムに従い、各スイッチ入力に応じた制御を実行するようになっており、この場合、電子レンジ機能とオープン機能とがある。すなわち、各種スイッチ26のうち、電子レンジ機能についてのスイッチがオンされると、切替リレースイッチ6の接点c-a間を閉成すると共に、メインリレースイッチ5を開成し、そして、半導体スイッチング素子17をオン・オフ制御する。また、オープン機能についてのスイッチがオン操作されると、切替リレースイッチ6の接点c-b間を閉成すると共に、メインリレースイッチ5を開成してヒータ8を通電気するようになっている。

ここで前記インバータ回路11における半導体スイッチング素子17およびトランス12を初めとして各種電気部品

は、第1図ないし第3図に示すように、プリント基板27に実装されており、半導体スイッチング素子17は放熱板28を介して放熱されるようになっている。そして、半導体スイッチング素子17およびトランス12はプリント基板27裏面の銅箔パターンから成る導体パターン29により接続されている。この導体パターン29は、プリント基板27において裏面に形成されている。

一方、前記温度センサ25は、前記プリント基板27上に、前記半導体スイッチング素子17とトランス12との近傍で且つこれらを接続する導体パターン29の近傍に位置して実装されている。この結果、温度センサ25は、半導体スイッチング素子17の他、トランス12および導体パターン29を含めた総合温度を検出することが可能である。

また、前記運転制御回路22は温度センサ25による検出温度と異常判定用の設定温度とを比較して検出温度が設定温度を超えると、半導体スイッチング素子17の駆動を停止して加熱運転を停止させるようになっている。この結果、半導体スイッチング素子17、トランス12および導体パターン29のいずれかが温度異常となった場合には、加熱運転を停止できる。従って、半導体スイッチング素子17のみならずプリント基板27における各部の熱による劣化を防止でき、使用寿命を長くできると共に安全性も確保できる。しかも、一つの温度センサ17でありながらも、これを、半導体スイッチング素子17とトランス12と導体パターン29との近傍に位置させて、複数箇所の温度を総合的に検出し得るようにしたから、温度検出対象の個々に温度センサを設ける場合と違って、構成が簡単であると共にコストの低廉化にも寄与できる。

*

* なお、上記実施例では、温度センサ25による検出温度に基づいて半導体スイッチング素子17の駆動を停止して加熱運転を停止するようにしたが、これは、半導体スイッチング素子17のオン時間を短くして出力を低下させるように加熱運転を制御しても良い。

【発明の効果】

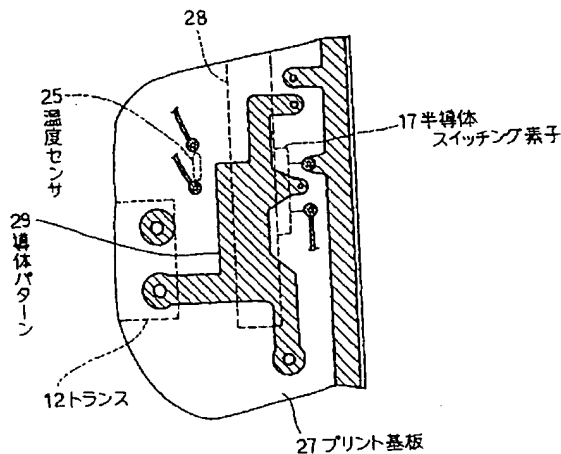
本発明は以上の説明から明らかなように、マグネトロンを駆動するために半導体スイッチング素子およびトランス等を備え、これら半導体スイッチング素子およびトランスをプリント基板に実装するようにしたもののにおいて、前記プリント基板上に、前記半導体スイッチング素子とトランスとの近傍で且つこれらを接続する導体パターンの近傍に位置して温度センサを設け、この温度センサによる検出温度に基づいて加熱運転を制御するようにしたことを特徴とするものであり、これにて、半導体スイッチング素子のみならずプリント基板におけるトランスおよび導体パターンといった各部の熱による劣化を防止でき、使用寿命を長くできると共に安全性も確保でき、しかもこれを簡単な構成にて達成でき、またコストの低廉化にも寄与できるという優れた効果を奏する。

【図面の簡単な説明】

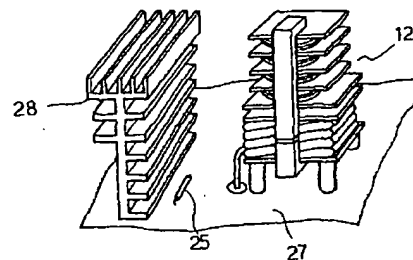
図面は本発明の一実施例を示すもので、第1図はプリント基板の要部を裏面からみた下面図、第2図は同要部の斜視図、第3図は半導体スイッチング素子部分の斜視図、第4図は電気回路図である。

図面中、9はマグネトロン、12はトランス、17は半導体スイッチング素子、25は温度センサ、27はプリント基板、29は導体パターンを示す。

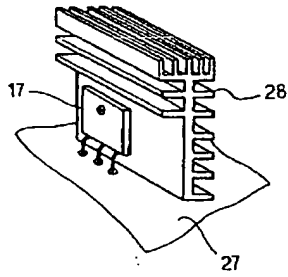
【第1図】



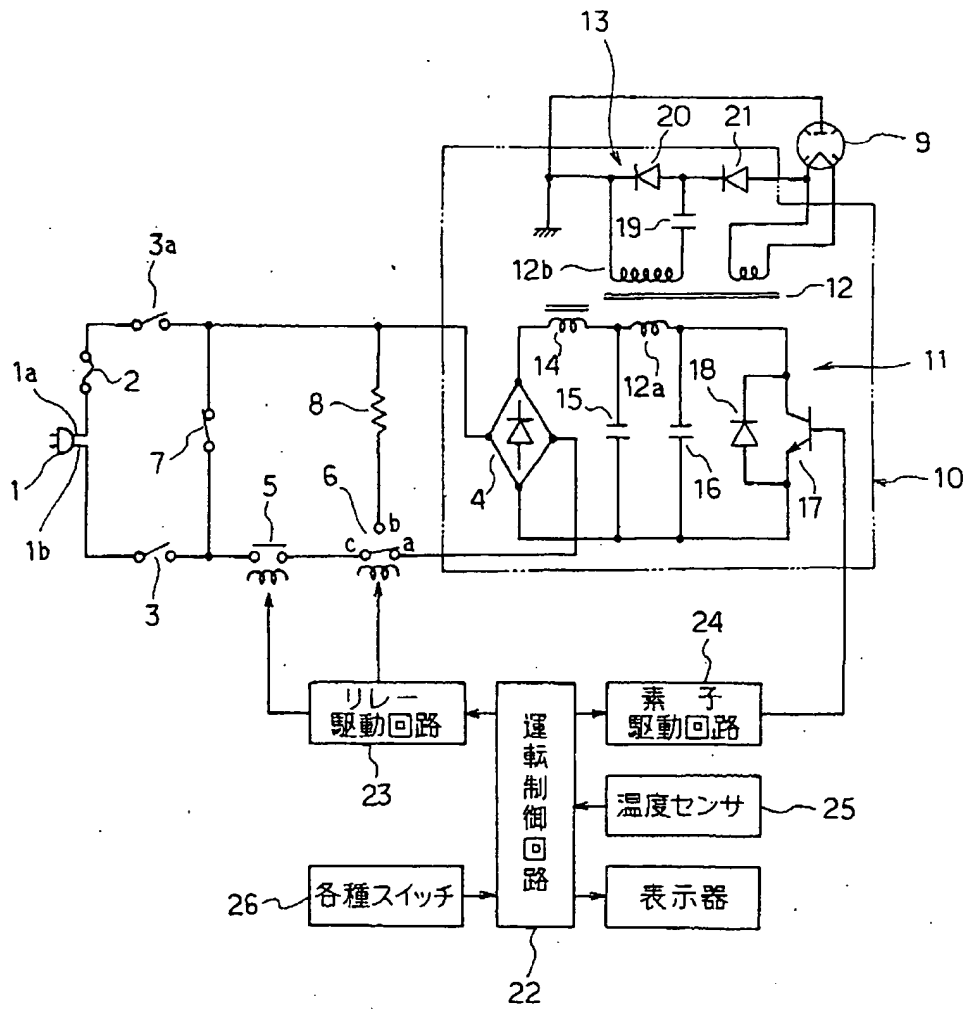
【第2図】



【第3図】



【第4図】



フロントページの続き

(58)調査した分野(Int.Cl.⁶, DB名)

F24C	7/02	320
F24C	7/08	320
H05B	6/68	330